

1 学習プログラムの使い方

学習プログラムについて

環境学習指導者は、学習計画書を作成する際に、参加者に応じた学習プログラムを採用する必要があります。

この章では、指導者がより効率的に活動展開できるように、基本的な学習プログラム事例を掲載しました。

本ガイドブックの学習プログラム事例は、

1. 自然の中で過ごしながら自然に触れ親しむ
(自然に親しむ)
2. 動植物や生態系など自然環境に関する知識を深める
(自然について知る)
3. 学んだ知識を活かして自然のために行動する
(自然のために行動する)
4. 学んだことや取り組んだことを他の人に伝え、交流しながらさらに自然環境に対する考えや行動を深めていく
(取り組みを広げる)

という4段階で構成されています。

この学習プログラム事例を参考に、オリジナルのガイドブックづくりに挑戦してみてください。

学習プログラムの内容

本ガイドブックの学習プログラム事例は、「自然に親しむ」、「自然について知る」、「自然のために行動する」、「取り組みを広げる」の4つの段階を、学習のねらいに合わせて、さらに9つの過程に細分化して記載しています。


指導者の皆様が、学習のねらいに適した学習プログラム事例を参考として、より効果的な活動を実施されることを期待します。

カリキュラム	学習のねらい	プログラム事例
1 自然に親しむ		
1 - 1 自然の中で活動する	自然の中で遊んだり、自然の素材を使って遊んだりすることによって、自然に親しむ。	ウォークラリー、天然素材利用、アウトドアスポーツなど
1 2 自然の様子を見る	自然の中を散策し観察することによって、自然に興味を持つ。	自然探検、ネイチャーゲーム、自然観察など
2 自然について知る		
2 - 1 地域の自然を知る	地域の自然・史跡などを見て、地域の環境やその歴史的背景についての理解を深める。	地域の自然観察、地域の史跡めぐり、まち探検など
2 2 生きものの知識を増やす	動植物をよく観察することにより、生き物に対する知識を深める。	季節の生き物の違いを知る、生息環境の違いを知るなど
2 3 自然の仕組みや人と自然の関わりを知る	個々の生き物の様子だけでなく、生態系の仕組みや人と自然の関わりについて考え理解する。	森の生き物の関わりを知るなど
3 自然のために行動する		
3 - 1 自然を守る	自然を守るための活動に参加する。	自然体験、水辺の保全活動など
3 2 自然を豊かにする	自然をより豊かにするための活動に参加する。	ビオトープづくり、地域の緑化など
4 取り組みを広げる		
4 - 1 自主的に考えて行動する	自然のために何ができるか、自主的に考えて、企画・準備を行い、行動する。	自然環境の保全計画づくりなど
4 2 取り組みを伝える	自分の取り組みを発表したり、他の人と話し合うことで、自ら学んだことを周囲に伝える。	活動発表、意見交換、イベントへの参加など

この表は、17ページ以降の「学習プログラム事例集」における事例探しに役立ててください。

学習プログラム事例の活用方法

1 - 1 自然の中で活動する

ウォークラリー/オリエンテーリング	分野	活動フィールド	季節
自然の中を歩こう	自然に親しむ	森林など	春夏秋冬
	対象者	参加人数	時間
	子どもから大人	複数人	1時間程度～
学習のねらい ・ 事例によって期待できる学習のねらいが記載されています			
事前に調べておくこと 実際に活動を始め前の手続きや確認事項などの具体例が記載されています 準備の前のチェックに使用すると便利です		必要な準備 活動時に必要な道具などが記載されています 準備の際のチェックに使用すると便利です	
主な学習内容 具体的な学習内容例が記載されています 活動の内容を考える際の参考に使用してください			
実施時に気にしておくこと 活動実施時の注意事項が記載されています		活動の後で 活動実施後に必要な事項や次の活動へ繋げるためのアドバイスなどが記載されています	
いろいろな情報 活動に役立つ情報が満載です			
<div style="border: 2px solid #ff00ff; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>実際に活動をして気づいたこと、気をつけたいこと、新しい情報など書き加えて次の活動に役立ててください。 また、資料編のシートを利用して、ご自分で考えたプログラムを加えてオリジナルのガイドブックをつくりましょう。</p>  </div>			